

令和2年度県央地区小学校教育課程研究会研究主題

豊かに感じ取る力を育てることを重視し、  
児童一人ひとりの資質や能力の育成を図る学習指導と評価の工夫・改善

テーマ

対話的学びを通じ、思いのままに表現する子を目指して  
～対話型鑑賞活動による発想力の向上～

地区名	県央地区
所属校	座間市立相模が丘小学校
名前	山路 彩芽

※児童の写真、ワークシートの記述、作品等については、すべて提案資料への掲載の許諾を得ています。  
〈この研究は、平成29年7月告示の小学校学習指導要領に則って行ったものである。〉

# I テーマ設定の理由

## (1) 学習指導要領・教育課程研究会の研究主題から

学習指導要領では、第5学年及び第6学年における図画工作科の目標として、本研究で関連する項目として以下のように挙げられている。

- (2) 造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品などから自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

「A 表現」の指導事項としては、

- (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。(思考力・判断力・表現力等)
- (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。(技能)

「B 鑑賞」の指導事項としては、

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。(思考力・判断力・表現力等)

第5学年及び第6学年「共通事項」としては、

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。  
イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。(思考力・判断力・表現力等)

としている。

## (2) 児童の実態から

本学級は、明るく素直で、自分の考えを表現する意欲に溢れている児童が多い。1学期に実施したアンケートでは、「図工が好きか」という質問に対し、このような結果が出た。

「好き」	62%	「どちらかというが好き」	28%
「どちらともいえない」	10%	「嫌い」	0%

しかし、「図工は好き」とは答えたものの、「一番好きな活動」では、このような結果だった。

紙工作、木の工作、粘土などの工作	54%
<u>えんぴつ、クレヨン、絵の具などの描画</u>	30%
友だちやプロの作品を鑑賞する	3%
作りたいものを考えること	13%

「自由に作りたいものが作れる。」「色々な材料や道具を使える。」など、工作が好きで、「絵の具で描くのは好きではない。」「絵は思ったように描けないので嫌い。」と、描画が好きではない児童が多くいることがわかった。

一方、描画が好きで工作が嫌い、という児童は一人もいなかった。これは、高学年は低学年に比べ写實的に描くことが目標になり、「より本物らしく描けたかどうか」を「上手、下手」という言い方で評価される機会が増えたことによると考えられる。描画が好きな児童の中には、「児童文化展で選ばれた。」「上手く描けると褒められた。」と、人と比べられたり、評価されたりすることで、絵を好きになっていることがわかった。

工作が、描画に比べて発想が広がると言えるのには、4つの理由が考えられる。

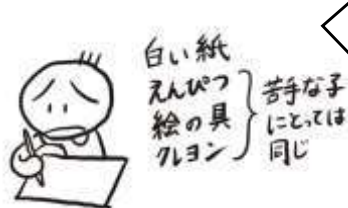
## 工作

## 描画

### 1. 使える物が多い



### 使える物が少ない



描画で、網、歯ブラシ、爪楊枝、布などの特別な道具を用いることは少ない。一方工作は、必ず材料や用具を使う。材料の色や形、感触からイメージを膨らませることができるので、描画に比べて発想がわきやすい。

### 2. 土台が皆、一緒



### 技能、経験の差が出る



工作は、キットなど同じ土台からはじめることも多い。何もない所から作りはじめるより、土台があることで、どのように飾っていくか想像しやすい。

### 3. 作り替えが容易で、後からイメージ付けられる



### 最初にイメージしなくてはいけない



描画は、最初と違うイメージを持ったとしても、消して、ゼロからやり直すことはできない。絵具やクレヨンなどは描き変えることもできない。最初から、ある程度完成イメージを持っていなければ取り掛かりにくい。一方工作は、部品を付け替えるなどして、容易に異なるイメージ付けができる。

### 4. 遊びながら作れる



### 作業的にさせられる



工作は、初めて触れる材料や作る行為そのものを楽しんでいるうちに、完成することも多い。教師も、描画では写実性、工作では発想や機能を評価することが多いのでは? 教師からの、丁寧さや描き込みの指導が多く作業的になり、児童は不自由さを感じる。

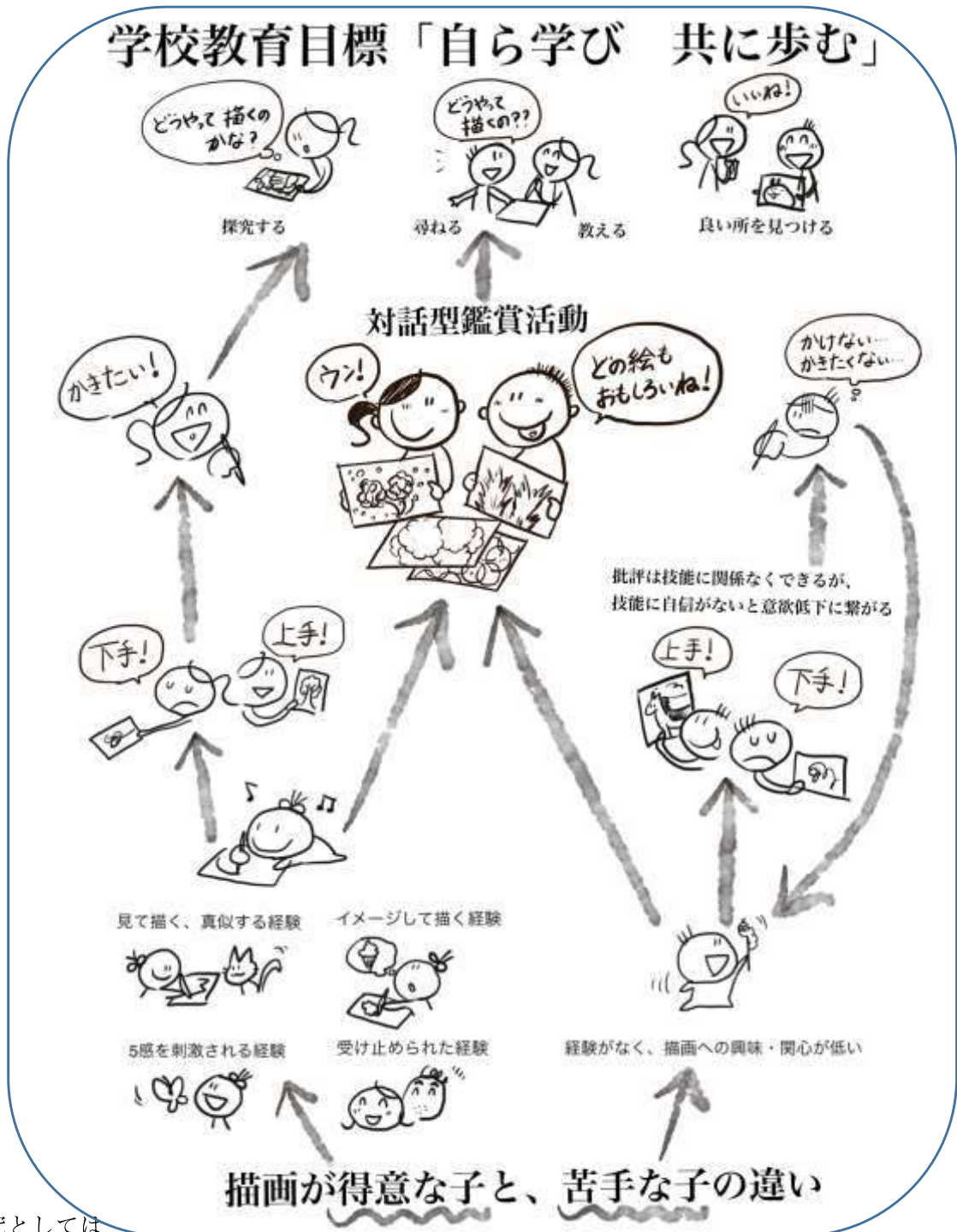
以上のことから、一人では発想が広がらず、描画嫌いになる児童が多いのではないか、と考え、テーマを「対話的学びを通じ、思いのままに表現する子を目指して～対話型鑑賞活動による発想力の向上～」と、設定した。

## Ⅱ 研究内容

### (1) 研究仮説

対話型鑑賞活動を通し、自分と他者の見え方・感じ方を比較することで、児童の発想力を向上させることに繋がるであろう。

### (2) 研究構想



具体的な研究としては

- ① 導入で、見本を見ながら対話型鑑賞活動をする。
- ② 材料を選ぶ際に、対話型鑑賞活動をする。
- ③ 作品との対話型鑑賞活動をする。

※本研究では、題材に関する絵画、写真、動画などを、児童同士、教師対児童で対話をしながら鑑賞し、見方・感じ方を深めていく活動を「対話型鑑賞活動」と呼ぶ。

以上の3つの手立てが、図画工作科で児童が思いのままに表現し、発想力を向上させる指導法として成果が上げられるかどうか、研究に迫りたい。

### (3) 年間指導計画

	単元名	活動内容	① 導入で提示 ②提示の目的
4月	見つけて広げて 【枙・1】	オリエンテーション。	① 水彩風景画、鉛筆人物画、CGの機械的な画、アニメ画など、雰囲気異なる画像を提示する。 ② 芸術作品は人によって好みが変わり、それぞれ魅力があることに気付かせる。
	心の模様 【絵・2】	クレヨン、絵の具を使い、「○○をしている時の気持ち」を模様に表わす。気持ちがより伝わるような形、色を考えて色画用紙に切り貼りする。	① モダンテクニックの画像の一部分や、抽象画。白色のギザギザやふわふわした形の切り抜きを提示する。 ② 人の感情を絵に表わすとき、その色や形に決まりはなく人によって見え方・感じ方が多様であることに気付かせる。
	カードを使って 【鑑・2】	アート・カードを使って友だちと対話型鑑賞活動を行い、自分なりの見方・感じ方を深め、よさや美しさを感じとることを楽しむ。	① アート・カードを使い、親の選んだカードをキーワードから当てるゲームをする。 ② 「楽しい」「さみしい」「かなしい」「しずかな」など、人によって作品の見方・感じ方・楽しみ方が多様であることに気付かせる。
	糸のコースイ 【工・5】	木の板を糸鋸で切り抜き、偶然できた形をイメージに合わせて着色・組立して、題名を決める。	① 木工作品の、細密、大胆、無着色、着色されたものを提示する。 ② 用途のあるものは細密に作る必要があるが、偶然出来上がったものも芸術的な魅力があることに気付かせる。
	消して描く 【絵・3】	描きたいもののイメージをおまかに決め、それに合わせてコンテの色(黒、こげ茶、赤茶)、消しゴムのかけ方を決める。消しゴムで消し、絵を描く。	① 明暗がはっきりした立体的な白黒の画像。消しゴムの強弱、平たい部分、とがった部分によって濃淡を表現した見本を提示する。 ② ものの光と影に着目し、消しゴムの濃淡が、描きたいもののどのあたりで使えるかイメージをふくらませる。
7月	コマコマアニメーション 【造・3】	粘土、画用紙などを操作し、一枚ずつタブレットで撮影する。動画作成アプリでアニメーションを作成し、コマずつ印刷したものを、イメージに合わせて色画用紙に切り貼りする。	① 丸、長四角などの画用紙を切り抜いたものを、人間の四肢に見立てて動かし、コマ撮りをしたものを提示。走っている人間が、転んで岩にぶつかり、水色の涙を流す場面を提示する。 ② 単純な形でも、色や形、組み合わせ、動かし方を工夫することで、それらしく見えることに気付かせる。
	使って楽しい焼き物 【工・4】	生成用の粘土を使って、紐作りや板づくりの技法を生かして、実際に使えるものを工夫して作る。	① 伝統的な焼き物や、現代的な陶器アート、100円程度の安価なもの、高価なものなどの画像を提示する。 ② 芸術作品の歴史や伝統を知るとともに、人によって好みの違いや、芸術作品には意外な価値が付くことの面白さに気付かせる。
9月	何をかいているのかな? 【鑑・2】	岡本太郎の絵画を使った、対話的な鑑賞を行う。	① 岡本太郎「森の掟」を鑑賞し、描かれている生き物や色などの一部分を提示する。 ② 芸術作品には、心地よさや写実性以外にも様々な魅力があり、一部分を取っても人によって多様な見え方・感じ方があることに気付かせる。

12月	マンガ家になるろう 【絵・3】	アップとルーズを使った漫画を1ページ描く。	① 漫画の一コマの、アップとルーズを比較して提示する。 ② 漫画には、人物に近づくことで気持ちなどがわかるアップや、離れることで全体の様子がわかるルーズなど、写実的に描くこと以外でも伝えるための表現があることに気付かせる。
	モダンテクニック 【造・2】	「ドリッピング」「吹き流し」「滲みたらし込み」「デカルコマニー」等、モダンテクニックの技法を楽しむ。	① モダンテクニックを描いている動画を提示する。 ② 最初にイメージを持たなくても、技法を使うことで作品になることに気付かせる。
	私が広げた世界 【絵・5】	写真の外側にはどのような世界が広がっているか想像し描く。自分の写真に合うモダンテクニック画用紙を探す際、対話型鑑賞活動を行う。	① インターネットから引用したモダンテクニックの作品を提示する。 ② 同じ色や形、模様でも、人によって多様な見え方・感じ方があることに気付かせる。
	立ち上がれマイライン 【工・4】	針金を「曲げる」「巻き付ける」など加工し、自立する立体作品を作る。	① 針金アートの作り方の動画。立体的、平面、動物、機械、可動するもの、パーツごとに作り組み合わせるものなどを提示する。 ② 針金の特徴を生かした作品をたくさん見ることで、発想を広げさせたい。
1月	刷り重ねて表そう 【絵・4】	図書室や自分で用意した資料を基に下絵を板に直接描き、彫り、印刷する。	① 中国や欧州の昔の木版画、平塚運一の作品、消しゴムはんこを作成する動画などを提示する。 ② 版画ならではの表現の面白さや、時代とともにより面白い作品が作れるよう様々な表現の工夫が生まれていったことに気付かせる。
3月	ミラクル！ミラーステージ 【工・4】	鏡の持つ面白さ、不思議さを生かして、材料を組み合わせる立体に表す。	① 鏡のあるお店の写真、鏡の反射を利用した芸術作品、マジック、水に反射した風景の写真、などを提示する。 ② 鏡を材料に使うことで、増やしたり、広くしたり、対称にしたり、見えない部分が見えるようにしたりするなど、不思議な現象をあえて作り出すことができることに気付かせる。
	伝えたい思いやきもち 【絵・6】	自分自身のことを、段ボールプレートにパーツを取り付けたボード作品で表し、友達と対話的鑑賞活動を行う。	① 食べ物、飲み物、色、動物、カルチャー、エンターテイメント、音楽、ファッション、場所、インテリア、ものの雰囲気、過ごし方など、好きな物などにかくたくさんの画像を提示し、「自分の好きなもの100」を作る。 ② 自分の好きなものとは、表現する礎だということに気付かせる。また、同じ物が好きでも、見方、感じ方は人それぞれで、その表現の多様さが面白いことに気付かせる。

#### (4) 授業の記録

描画が苦手だという児童 A

このクルマのコンセプトは そばをとべる。 です

① クルマのデザイン(どんな見た目か)

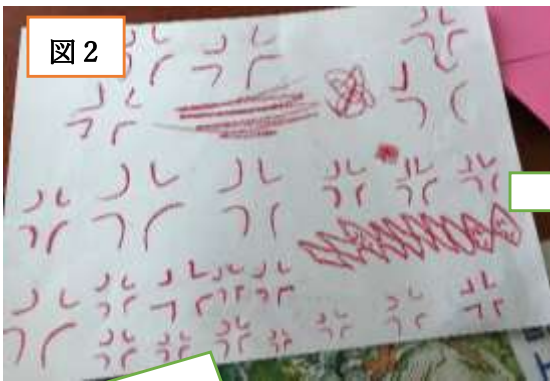
かっこいい  
みえ+ふい  
はしるところはみえる  
とやてりるてきしよみえ+ふい

図1



図3

図2



最初のテーマ「ゲームをしているときの、むかつく気分の自分」

最後の題名「ゲームをしているときの、うれしいけど仲間にできなくてちょっといらっているときの自分」

Aは、描画が苦手と感じているようだ。

社会科の、空想の車を描く活動(図1)では、イメージは持っているのだが、車の絵は描かず文字で表現した。「心のもよう」(図2)では、赤で記号をいくつか描いて活動を終わらせた。「マークで表現した。色は赤で怒っているように見せた。」と、自分なりに考えて工夫していることは伺えたが、「いろいろマークを描いていたら、いろいろした。」と、描くことを楽しめていない様子や、「いろいろマークをもっと描けば、もっと伝わったと思う。」と、怒りを表現するために「いろいろマーク」以外のものが発想できていない様子があった。

Aが描画に苦手意識を持つ原因として二つのことが考えられる。

第一に、Aが描画への意欲向上につながる経験が少ないため、表現の選択肢が少なく発想がわからないのではないか。イメージはあっても、どう表現すればいいかわからないことへの苛立ちがあり、苦手意識に繋がっていると考えられる。

第二に、描画に目的が感じられないからではないか。Aは、工作で作品を機能的にする活動や、皆同じ形の土台を作る活動など、ゴールがあると積極的に取り組める。細かいところを描き込んだり、丁寧に色を塗ったりするなど、ゴールがない活動では、意欲が下がっていた。Aは、アンケートで「図工が好き。」「工作がたのしい。」と答えていた。「糸のこすいすい」(図3)では、最後まで**のびのび**と制作し、嬉しそうに作品を持ち帰った。

描画が、発想を広げるための**選択肢が豊富**であり、目的が明確であれば、苦手意識を持つ児童の意欲向上に繋がるのではないだろうか。

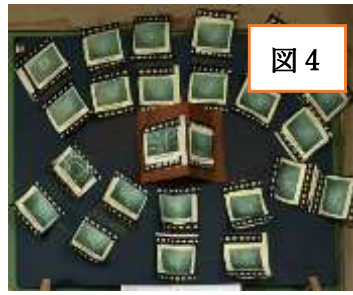


図4



図5



図6

最初のテーマ「遊んでいる時の楽しい気分の自分」



最後の題名「ねている時の楽しくふしぎな気分の自分」

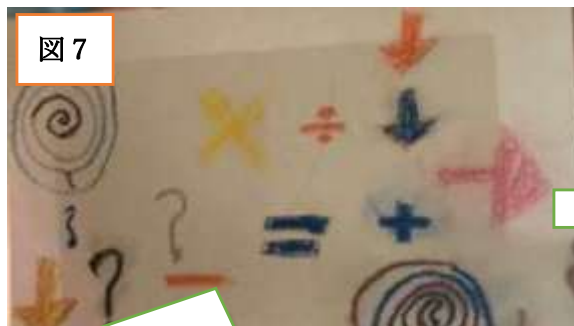


図7

最初のテーマ「そろばんをしている時の、楽しい時と悩んでいる時の自分」



最後の題名「ジェットコースターにのる前のワクワクとどうしようという気持ち」

B、Cは自分なりの作風を持っており、描画が好きだという。

大きく描くこと、余分なスペースを出さないことなどの基本的なことから、明暗をつけたり、立体的に見せようとしたりすることなど、高い技能も持っているが、写実性だけでなく見せ方のアイデアも豊富である。

たとえば、Bは「コマコマアニメーション」(図4)で、ひまわりの花が種からどんどん育っていくアニメを作り、一コマ一コマをひまわりの花びらに見立てて、掲示用の画用紙に貼り付けた。

Cは、「コマコマアニメーション」(図5)で、カブトムシとクワガタが戦う動画を作ったが、迫力が出るように、攻撃された虫が、画面に打ち付けられたように見えるよう、撮影の仕方を工夫していた。

またBとCは、一学期の単元「心のもよう」(図6、7)で、最初に決めたテーマを、完成作品に合わせて柔軟に変えていた。同じ作品のテーマを変えられるということは、様々な見方・感じ方ができていることであり、描きたいものがたくさんあるということだ。

このように豊富な発想を持つ児童は、自分の作品だけでなく、他の児童の作品に対しても、作った本人も気づかなかったような発想を伝えるであろう。描画に自信のない児童も、対話型鑑賞活動を通して、様々な見方・感じ方に触れ、発想や構想の能力を高めることができるのではないだろうか。



## 図画工作科学習指導案

座間市立東原小学校  
指導者 山路 彩芽

1. 日 時 令和元年11月7日(木) 第6校時(14:45~15:30)
2. 学年・組・場所 第5学年1組(30名) 教室
3. 題 材 名 「私が広げた世界」 A 絵画(1)
4. 題材について

### (1) 題材観

本題材では、学習指導要領に示す第5学年及び第6学年「A表現(1)表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。」の指導事項「イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。」及び「共通事項」「親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみのある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。」を学習する。

児童の心にとまった写真などをもとに、あったらいいなと感じる世界を絵に表す。現実ではありえないものでも、絵ならば自由自在に表現することができるという、描画の魅力を感じることもできる題材である。世界中のあらゆる物、雰囲気や感情などの具体物でないものでさえテーマにできるので、大変自由度が高い。それ故に、児童の経験、発想力、技能の差が表れやすい題材でもある。そこで、描きたいものを意図的に表現するのではなく、偶然できた色や形が何に見えるかを自分で考えたり、友だちと話し合ったりして、作りながらテーマを決めていくことで作品を完成させる描画活動を行いたい。児童には、自由度の高さは困難ではなく、楽しさに繋がるものだという実感を持たせたい。

### (2) 児童観

一学期に実施したアンケートによると、本学級の児童は「図工が好き」な児童は90%であるにも関わらず、「描画が好き」な児童は26%であり、工作は得意だが描画は苦手な児童が多いことがわかった。そもそも、絵とは、立体を平面に表現するという難しい表現方法である。また、白い紙に0から描くため、事前に構想が必要である。さらに、絵の具やクレヨンが消すこともできないので、意図的に一発で表現する力が必要で、写實的に描くことは大変難しい。

そこで、意図的に描くのではなく、偶然できた色や形を生かしながら作品を作っていくことで、描画が苦手な児童も意欲的に発想を広げていけるのではないかと考える。

本学級では、9月に岡本太郎の絵画作品「森の掟」を大きく拡大したものを黒板に掲示し、それを学級全体で同時に鑑賞しながら、見えたものや感じたことを話し合う「対話型鑑賞学習」を行った。担任からは「この授業は、正解も不正解もないので、自分の感じたことを好きなように発表しよう。」と説明をした。児童は、友達と絵の一部を指して気づいたことを伝え合った。算数など、明確な答えのある授業では発言を躊躇する児童も積極的に発言したり、友達の意見に反応したりしていた。考えを聞く中で、見方や感じ方の多様性に気づく児童もいた。

### (3) 指導観

絵を描くことが好きな児童は、幼少期から描画への意欲向上につながる経験、例えば絵で表現したいと思えるような五感を刺激される経験をしたり、真似して描いたりして、褒められる機会が多くあったのではないだろうか。描きたいものを自分で考え、そのイメージ通りになるような様々な技法を試すことが多ければ、技能を豊富に持ち、どんなテーマでも発想することができるであろう。一方、絵が苦手な児童の特徴は、描きたいものが思いつかない、思いついても描き方がわからないといった困難がある。そのため、作業への取りかかりが遅くなり、描き始めても、自分で満足できる絵を完成できないことが度々ある。

そこで、絵が苦手な児童も、描画を楽しみ、自信を持って次の活動に意欲を持つことができるよう、「作品の多様な見え方・感じ方を知ること」「偶然できた表現に後からテーマを付けること」が有効だと考える。

「作品の多様な見え方・感じ方を知ること」の手段として、「対話型鑑賞学習」がある。児童にとってわかりやすいもの、わかりにくいものが含まれた絵画作品を観賞し、自分と友だちの見え方・感じ方の違いに触れたり、新しい見え方に気づいたりする。「どうして、そう考えた。」といった心情を尋ねるのではなく、「どの部分から、そのように見えたのか。」を尋ねることで、同じ色や形でも色々な見え方・感じ方があることを実感させたい。また、「私が広げた世界」で使う写真を、カラーでなく白黒を使用する。色がないことで、見え方や感じ方がさらに多様化し、「花の周りには木がある。」「風船の周りには空がある。」といった固定概念に縛られずに発想を広げるねらいがある。

「偶然できた表現に後からテーマを付けること」の手段として、手順が決まっている画材の操作（モダンテクニック）がある。ティッシュや手などを使って線をぼかすなど、輪かくをはっきりさせないことで抽象的に見え、偶然出来上がった技法を集めていきたい。技法を獲得することで、次に自分が絵を描くとき、描きたいものに合わせて技法を使えるようにしていきたい。

## 5. 題材目標

心にとまった写真から、まだ見たことのない世界の形や色を想像し、表し方を工夫して絵に表す。

## 6. 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	絵の具の使い方を学び、芸術の様々な表現の良さを感じ取っている。
発想や構想の能力	「対話型鑑賞学習」を通し、色や形の多様な見え方・感じ方に気づき、描きたいものを思い付いている。
創造的な技能	想像した世界を表すために、モダンテクニックの色や形を生かし、抽象的な表現が具体的に なるよう表し方を工夫している。
鑑賞の能力	友だちと作品を見せ合い、「私が広げた世界」を想像して、工夫して表したよさや美しさを感じ取っている。

7. 題材の指導・評価計画（5時間扱い）

時	ねらい	学習内容	指導上の留意点	評価規準
1 本 時	「対話型鑑賞学習」を通し、色や形の見え方・感じ方の多様さに気づき、写真の外側の世界について自分なりに発想を広げる。	前単元で作成した、モダンテクニックの作品に、写真を照らし合わせ、似合う色や形を探したり、何に見えるかを考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットから引用したモダンテクニックの作品を使い、写真に合う色や形の探し方を練習する。</li> <li>・「この色、この形が自分の写真に合いそうだから、このモダンテクニックの作品を選んだ。」というように、理由を書けるようにする。</li> </ul>	「対話型鑑賞学習」を通し、色や形から、描きたいものを思い付いている。 <b>【発想・構想の能力】</b>
2 3 4	色や形を生かし、写真の外側の世界について、発想を広げる。	写真の外側の世界について想像を広げながら、モダンテクニック作品に絵を描き加える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モダンテクニックを生かしたり、上から色を重ねて変えたりしても良いことを伝える。</li> <li>・描きたいものの色や形を考えさせ、抽象的な表現が出来るだけ具体的になるようにする。</li> </ul>	想像した世界を表すために、モダンテクニックの色や形を生かし、抽象的な表現が具体的になるよう表し方を工夫している。 <b>【技能】</b>
5	友だちは、どんな世界を描いたかを考える。	友だちの作品を鑑賞し、どのような色や形を使って、どんな世界を描いたかを考え、発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな色や形を生かしたかを考えられるようにする。</li> </ul>	友だちと作品を見せ合い、「私が広げた世界」を想像して、工夫して表したよさや美しさを感じ取っている。 <b>【鑑賞】</b>

8. 本時の指導（1/5時間目）

(1) 目標

「対話型鑑賞学習」を通し、色や形の見え方・感じ方の多様さに気づき、描きたいものを思い付く。

(2) 実現状況を判断する際の、具体的な子どもの姿

	十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	努力を要する（C）と判断した児童への具体的な手だて
発想・構想の能力	「対話型鑑賞学習」を通し、色や形から多様な見え方・感じ方に気づき、自分なりに発想を広げている。	「対話型鑑賞学習」を通し、色や形から多様な見え方・感じ方に気づき、描きたいものを思い付いている。	「対話型鑑賞学習」の際、モダンテクニックで表された模様の特徴が何に見えるか個別で尋ねたり、教師側から例示したりして、発想を促す。

(3) 展開


過程	学習活動	指導上の留意点	評価（観点・場面・方法）
導入 5分  展開 3分 5分 まとめ 5分	1. 担任と「対話型鑑賞活動」を行い、白黒写真に合うモダンテクニックの見つけ方を学ぶ。  2. 友達と「対話型鑑賞活動」を行い、自分の持参した写真に合うモダンテクニックを選び出す。  3. 全体で考えを共有する。	1. (1) 最終的な完成作品を見せ、イメージを持たせる。 ・完成作品は、白黒写真以外は黒画用紙で隠してある。黒画用紙をめくると、どんな世界が広がっているのか考えさせる。  (2) インターネットから引用した、モダンテクニックの見本を提示し、白黒写真を照らし合わせる。 ・どの部分が、どんなものに見えるか、どんな感じがするか。 ・写真に合うか、合わないか。  2. (1) 全児童のモダンテクニックの作品は、赤系統、青系統、緑系統、黄色系統など、色ごとに分類して机に配置する。  (2) 「この色、この形が自分の持参した写真に合いそうだから、このモダンテクニック作品を選んだ。」と、選んだ理由をワークシートに記入させる。	【発想・構想の能力】 「対話型鑑賞学習」を通し、色や形から多様な見え方・感じ方に気が付き、描きたいものを思い付いている。 （ワークシート）

(4) 3つの手だて

本時では、対話型鑑賞活動を、以下のように取り入れた。


**① 導入で、見本を見ながら対話型鑑賞活動をする。**

教師がモダンテクニックの画像を用意し、製作に入る前に、その一部分を提示して対話型鑑賞活動を行った。これにより児童は、同じ作品でも人によって見え方・感じ方が違うことに気づき、自らの表現も写実的な上手い下手に捉われず、自由な発想ができるのではないかと考えた。




**② 材料を選ぶ際に、対話型鑑賞活動をする。**

モダンテクニックの練習をした画用紙を並べ、自分の写真に合うものを選ぶ。選ぶ際、対話型鑑賞活動をすることで、自分では気づくことのできない見え方・感じ方に触れ、発想力を広げることができるのではないかと考えた。



**③ 作品との対話型鑑賞活動をする。**

完成作品の上に、見せたい部分だけを切り抜いた黒画用紙をかぶせ、掲示し、鑑賞する。友だちからももらったコメントを、黒画用紙の裏に貼りつけ再度掲示する。友達からのコメントにより、自分の作品にも多様な見え方・感じ方があることに気づき、写実性だけでなく魅力を感じたり、思い入れを深めたりするのではないかと考えた。



### Ⅲ 成果と課題

#### (1) 成果 ～児童の3つの変容～

##### 1. 既にある色や形から発想できるため、描画に苦手意識のある児童の発想が広がった。



図 8

#### 他の児童のコメント

「火が迫力があってキレイ。」「火みたいな爆発みたいなかんじ。」  
「色々な色を合わせて、中には楽しい世界があるのかな?」「すごくはしゃいでいるかんじ。」「紅葉した木がたっていると思います。」「貼ってある謎のチップとデールがトリックみたい。」

図 8 は、描画に苦手意識のある児童 A の作品である。別の児童が描いた赤い枝分かれした吹き流しの模様に、茶色い山を描き加え、「噴火している山」を表現した。濃い絵具を塗ったり、キラキラを付け加えたりして、爆発を大きく表現した。今までの描画活動で A は、どうやって作ったらいいか担任に何回も尋ねることが多かったが、今回は元々色や形があることで、それを基に、どう表現するかイメージを持って取り組むことができていた。

##### 2. 児童が写実性だけでない、作品の様々な魅力に気づいたり、気づかれたりすることで自信が高まった。



絵の一部が見えるよう切り抜いた黒画用紙を重ねる。黒画用紙の裏に、描いてみた感想と、友達のコメントを貼り付ける。

対話型鑑賞中に、児童に感想を求めたところ、

児童 D 「自分では、そんなによくないと思っていたけど、いざこうやって褒めてもらえると嬉しい。」

児童 E 「自分の思ったことと、他人の思ったことが違うから、面白いなと思った。」と答えた。

現実にはなさそうなもの、普通なら共存していなさそうな摩訶不思議なイメージを持って描く児童が多く、「まだ見たこともない世界」を表現することが十分にできていたと感じられる。手が止まったり、描き方を尋ねることなく、のびのびと活動をしていた。



「図工は、自分が思うままに描いたり作ったりできることが大好きです。今日この授業で上手いも下手も関係ないことがわかりました。」  
「動物のたまごがある。」「恐竜がいっぱいいる世界を描いている。」  
「人間が恐竜を見ている。」「恐竜が戦っている。」「恐竜たちがかくれんぼをしている?」「自分なら何が出てくるか見えないようにする。」



「季節のうつりかわりをイメージしました。もともとあった暗いグラデーションをいかして、足あとにしたのが特徴です。みんなあたたかい季節をおいもとめる。そんな絵だと思います。」

「楽しく動物たちが遊んでいる?」「自由なかんじがうかびました。ジャングルに似ている。」「いろんな動物がいそう。」「めくりたくなった。」「花火、野菜の世界に見える。」「夜で、めくると朝になるという、すごいしくみになってる。」

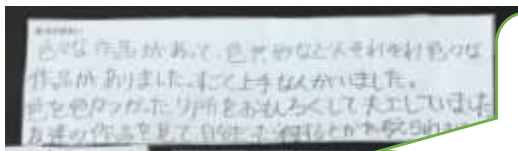


「今は失われてしまった雑木林と人が共存しているようすを、みんなに想像してほしいというおもい。」

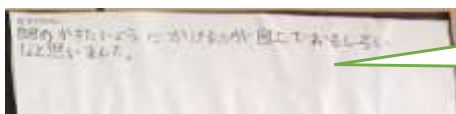
「周りに色んなみどりがあって、田んぼだとおもう。」

「切り取った形が星と空だから、夜の森林?」「聞いたから、黄色いのは稲だった!」「大自然を想像したんだと思いました。」「自分なら水の風景を描きたい。」「森が広がっていて生き物がいそう。虫の鳴き声が聞こえるね。」

「田舎町のように森が広がっている。」



「色々な作品があって、色や形などそれぞれ色々な作品がありました。すごく上手な人がいました。色を色々使ったり、面白くて工夫していました。友達の作品を見て、自分だったら何するかとかを考えられました。」



「自分の描きたいように描けるのが図工で、おもしろいなと思いました。」

### 3. 様々な技法に触れ、自分にもできそう、この表現方法を試してみたい、という次回への意欲が高まった。

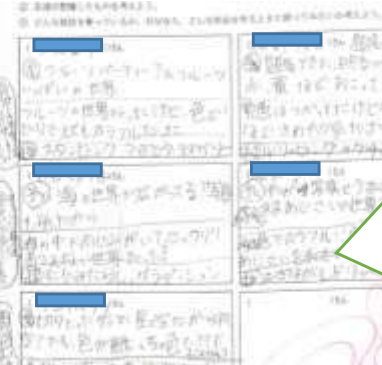
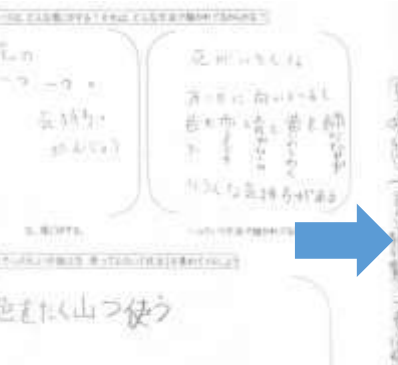
図工の最後の鑑賞では、3項目を書けるよう促した。

- ① 友だちが何をイメージして描いたか考える。
- ② どんな技法をつかっているか考える。
- ③ 自分が次に使うとしたら、どういう作品で使いたいかを考える。

このうち、③の「自分なら、どう使うか」を考えられる児童の増加が見られた。モダンテクニックは、写実的な技能に関係なく表現できる技法なので、自分でもできそうだと思う。抽象画なので、色々な見え方・感じ方ができ、自分ならどうやって表現するかを想像しやすいためだと考えられる。

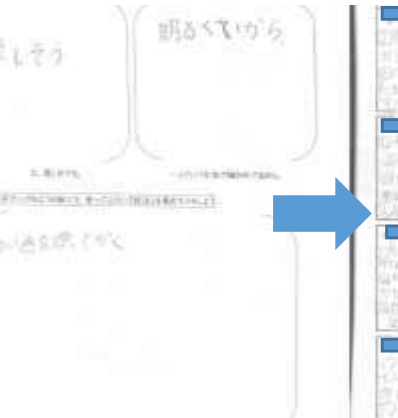
「次回、使ってみたい技法は?」という問いに対して、左：1学期の単元「カードを使って」、右：本単元

「色をたくさん使う。」  
具体的に何に使うかは想像できていない。



「スタンプングは、ぶどう、ラズベリーに使う。」  
自分の作品への使い方を想像している。

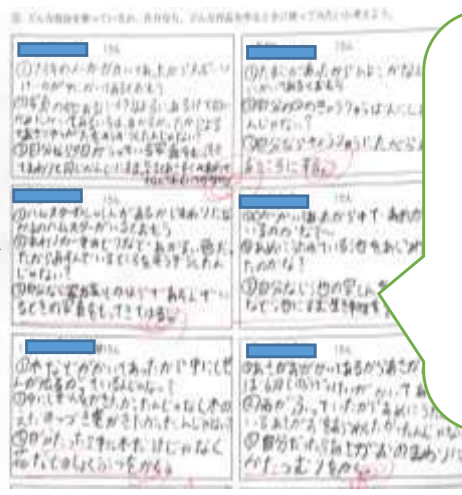
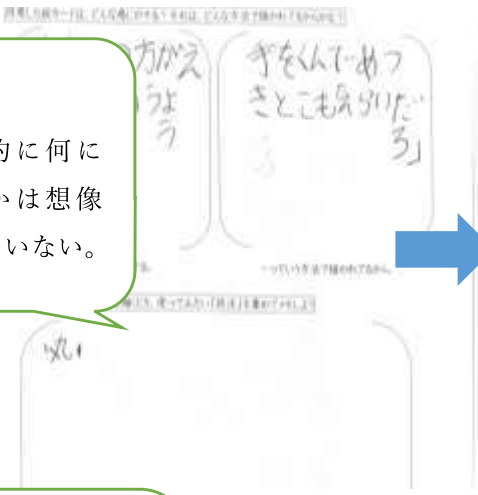
「明るい色を使ってかく。」  
具体的に何に使うかは想像できていない。



「やっぱり卵から恐竜が出たから、自分なら何が出てくるか見えないようにする。」  
自分の作品への使い方を想像している。

「丸」

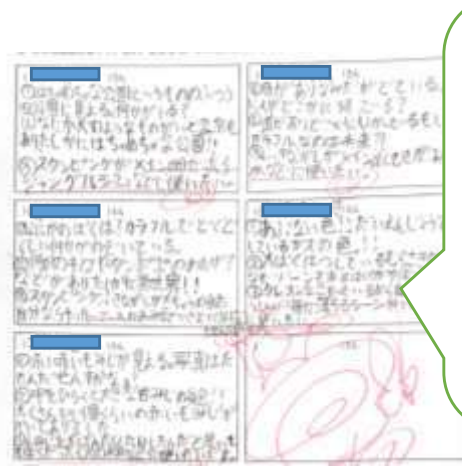
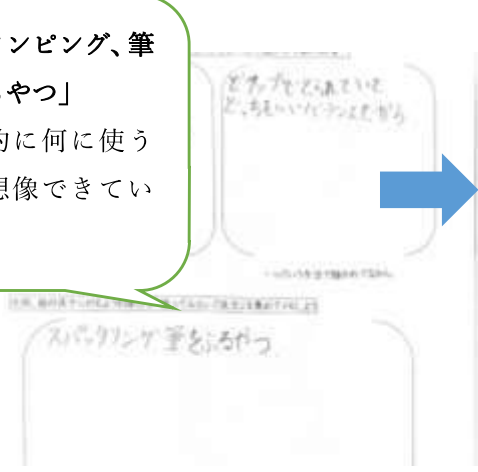
具体的に何に  
使うかは想像  
できていない。



「自分なら木だけじゃなく花などの植物も描く。」  
「池の写真を使って、池に住む生き物を描く」  
自分の作品での使い方を想像している。

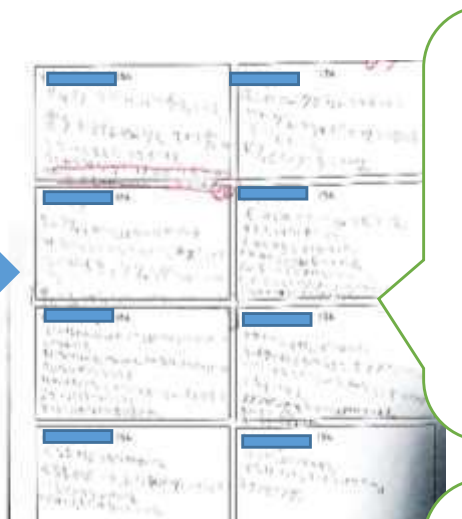
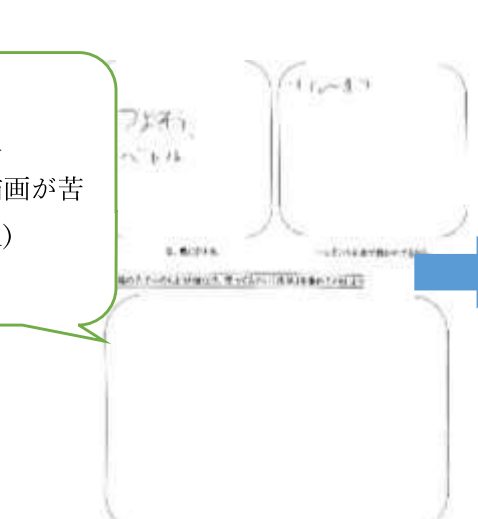
「スタンプング、筆をふるやつ」

具体的に何に使うかは想像できていない。



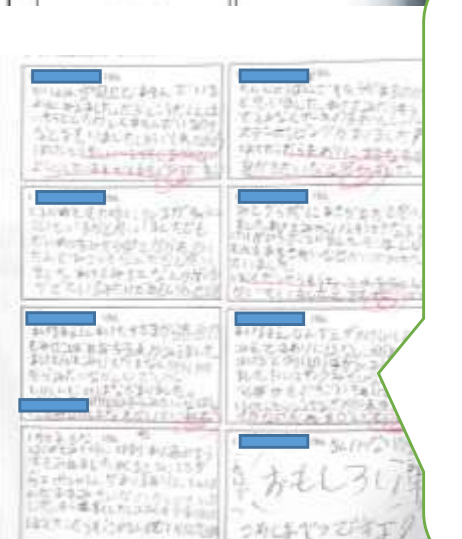
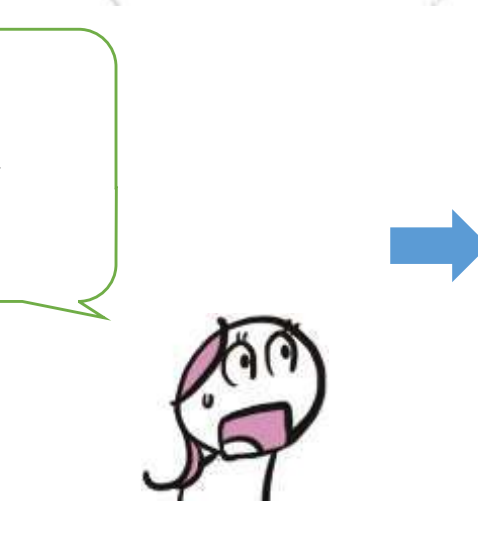
「吹き流しを落ちた水に使いたい。」  
「クレヨンをこすつてのを、夕日が海に落ちるシーンや隕石に使いたい。」  
自分の作品での使い方を想像している。

未記入  
(※描画が苦手なA)



「下が茶色で上が赤いから、火山を描くのうってつけだと思った。」  
自分の作品での使い方を想像している。

未提出



「誕生日にごちそうがあるから、ぼくなら周りに好きなものを描きたい。」  
「ぼくなら、ジンベイザメの他に魚の群れを描いていた。」  
「夕焼けの空に紅葉や花を描いていた。」  
自分の作品での使い方を想像している。



## (2) 課題

### 1. 元々、自由な発想を持っている児童の発想の幅は、狭めたかもしれない。

白い紙ではなく、モダンテクニックが既に描かれた作品に、「何に見えるか」を考えながら描くので、元々自由な発想を持っている児童については、逆に発想を狭めたかもしれない。

改善策として、モダンテクニック画用紙を選んでも、真っ白い紙を選んでもいいというふうに、選択肢をさらに増やすことで、色々な児童に対応できると考える。

### 2. 制作や鑑賞のモチベーションの維持が難しい児童もいる。

交換授業の関係で、毎週2時間を1時間ごとに分けて図工を行うことになった。連続で2時間かけても、ゴールのない抽象画は特に、早々に活動を終えてしまって、かなり時間を余らせてしまう児童もいた。モチベーションを維持させるためには、制作と鑑賞を交互にしたり、同じ作業ばかりにならないようにしたりしなくてはいけないと感じた。

最後の鑑賞も、一定期間展示した後でやると、作品が日常の風景の一部になってしまい、作品の感想を持ちにくくなったりする。鑑賞のタイミングも作り立てで、できるだけ完成した直後にできると良いと感じた。

### 3. 技能の差がわかりにくく、評価が難しい。

モダンテクニックの模様を、「きれいだから消したくない」と、あまり自分の絵を付け加えなかったり、小さい模様をもとにして発想したので、描いたものが小さくなったりして、いつもなら写実的に描ける児童も含め、高学年にしては拙いに見える作品になったかもしれない。本単元で描画の技能を評価するのは難しいと感じた。

ただ、芸術の世界では、時に上手下手では測れない作品に莫大な価値がつくことがある。児童には、自分の作ったものを好きになってほしいし、一人ひとりの作ったものに価値があることに気づかせていきたい。

低学年は、絵の中に自分が入りこみ、絵の中で遊びながら作品を作っていく、造形遊びの単元が多くある。しかし、高学年は、児童が写実的に描きたい意欲が高くなってくる上、単発でやる造形遊びの単元が少ない。高学年でも、低学年と同様に、「はじめて知った。」「やってみたい。」というような言葉が、児童の中から湧き上がってくるような指導法を、これからも模索していきたい。

## 引用・参考文献・資料

- ・小学校学習指導要領解説 図画工作編（平成29年7月） 文部科学省

